

令和8年 3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立下目黒小学校
校長 守屋 大貴

令和7年度 目黒区立下目黒小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年 6月28日(土) 午前10時50分～午後12時00分
 - ・「令和7年度学校経営方針」説明
 - ・学校生活全般についての意見交換
 - ・コミュニティ・スクールの学校運営協議会・地域学校協働活動推進員について 等
- (2) 第2回実施日時 令和7年11月 6日(木) 午前10時50分～午後12時00分
 - ・校内観察(学校公開日)
 - ・学校生活全般についての意見交換
- (3) 第3回実施日時 令和8年 1月22日(木) 午前時分～午後時分
 - ・今年度教育活動の振り返りと来年度教育活動に向けて(学校評価検討)
 - ・来年度学校運営協議会について

2 参加者

堀江 久教 様 平出 明 様 久保 栄 様
 勝呂 喜代美 様 松金 一江 様

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ●(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者・低学年児童・教職員では、すべての評価項目で肯定的評価が90%以上であり、学校全体への評価は概ね良好である。特に、低学年児童に置いては、すべての項目について4ポイント以上増となった。高学年児童については、「学校は楽しいですか」と「小学校が好きですか」の2項目においていずれも1ポイント減となったが、90%前後を保っている。	・引き続き日々の気分の入力や i-check などのデータの分析・把握を確実にし、児童理解を深めるとともに、日々の連絡帳にも複数人で目を通し、迅速かつ組織的に対応する。	・左記のとおり。

	<p>●地域の方からは、「学校と地域の連携は円滑に行えている」が15ポイント減となった。今年度は組織的に地域行事に参加しやすいような体制を整え、芝刈りや住区の行事などにも顔を出せるようにし、保護者からは評価する声があったものの、地域の方からは「勤務の関係で難しいとは思いますが、もっとふれあいたいと思っている」との意見があった。</p>	<p>・教職員が地域の活動にも参加しやすくなるよう、環境を整える。さらに、その成果についても学校だより・ホームページ等で発信していく。</p>	<p>・今年度、体制を整えてもらったが、数名の先生方にしかお会いできなかった。年に1回でも顔を出してもらえると嬉しい。</p> <p>・休みの日で難しいかもしれないが、子供たちが地域で見せる顔は違うので、そのあたりを管理職から伝えたり調整などの配慮をしたりするといい。来年度からの取組を変えていくといいのではないかと。</p> <p>・芝刈りも先生方やPTAの負担も軽減できるように、来年度の学校運営協議会でも考えていきたい。</p>
<p>Ⅱ 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎教育目標については、教職員・地域においては肯定的評価が90%を超えていたものの、保護者については1.4ポイントの微減であった。自由記述欄を見ると、「わかりにくい」「具体性がない」「どのように実践され、どのような成果につながったのかが分かるとよい」といった意見があった。</p>	<p>・年度初めの保護者会での説明だけでなく、年間を通して、教育目標を達成するための取組や成果について、指導の実態や児童の具体的な姿を取り上げながら、発信していく。</p>	<p>・左記のとおり。</p>

	<p>●時程について、本校では午前5時間制のメリットを生かして時程を工夫し、教育内容を充実させつつも児童が早く下校できるよう設定している。これまで特に否定的な意見は上がっていなかったが、今年度は「学校にいる時間が短すぎる」という意見があった。また、「休み時間が短くなった」「やるが増えた」など、実態とは異なる意見もあった。</p>	<p>・保護者・地域への実態の発信が充分でないところについては、学校評価の報告や学校だより等で分かりやすく伝える。</p>	<p>・午前5時間制は区の方針であること、メリットなども伝えていくことを続けていく。</p> <p>・下校が早まったので、子供たちが公園で遊んでいる姿を見る。それまでは、ほとんど子供を見なかった公園でも、子供が集まるようになり、自治会の方が子供たちのためにゴミ拾いなどをするようになった。その様子を見た子供が一緒に行っている様子もあるなどの良さもある。地域と保護者の考え方が違うところがあるのかもしれない。</p>
<p>Ⅲ 心の教育について</p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎児童の肯定的評価については、高学年・低学年ともに数ポイント増となり、高い水準を維持している。一方で、保護者の肯定的評価は3ポイント減となり、自由記述をみると、特にたてわり班活動について、肯定的な意見と、「児童の負担になっている」という否定的な意見の両方が見られた。</p>	<p>・たてわり班活動については、高学年児童の主体性を重視しつつ、担当教員は高学年児童の負担感・活動内のトラブルに対するフォローを十分に行い、児童の様子について情報共有を確実にする。</p>	<p>・道徳だけではなく、全教科や特別活動などを通しての心の教育であることをアピールしていくとよい。</p> <p>・同じたてわり班の友達の名前を言えるようになるなど、子供たちの関わり合いにとって大切な活動である。</p>
<p>Ⅳ 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、しもめタ</p>	<p>◎学習指導については、四者ともに肯定的評価が90%以上であった。</p>	<p>・学習のPDCAサイクルや学年会等をいかして、引き続き授業力向上に努める。</p>	<p>・教員の評価が下がっている。教員のさらなる意欲や授業力向上に繋がるよう、面談等で伝えていくといい。</p>

<p>イム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習用情報端末について、保護者からは活用について肯定的な意見も多くある一方で、「重すぎる」「紙を使った読み書きの時間もあってほしい」「誤操作などもあり効率が悪い気がする」「健康面での懸念がある」など疑問を呈する意見も多く見られた。 <p>◎出前授業・体験活動を取り入れた教育活動については、学校公開時のアンケートなどでも肯定的な声が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、学習用情報端末の更新が行われ、仕様や活用するアプリなども来年度は大きく変わる予定。基礎学力の定着や、学習用情報端末の活用において身に付けさせたい力を重視し、児童の実態に合ったルール作り・活用方法について検討し、学校全体で足並みを揃えた指導を行う。 ・今後も、カリキュラム・マネジメントを行い、計画的かつ効果的に出前授業・体験活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のとおり。 ・左記のとおり。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎体力向上・健康の促進については、高学年児童の肯定的評価は昨年に引き続き70%台だったものの、保護者・低学年児童・高学年児童いずれもポイント増となった。教職員は1.5ポイントの微減ではあったが、今年度から「体力向上週間」を2回に増やしたり、芝生養生中も体を動かす機会を確保できるよう工夫したりした成果が表れたと言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上週間は、実施期間中だけでなく、普段の授業や日常生活とのつながりをさらに意識した内容を考える。引き続き、子どもたちの運動の機会を確保できるよう、芝生養生中の教育活動についても学校全体でカリキュラム・マネジメントを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康についての気付きなどの気持ちの問題が、高学年の評価が下がった要因の一つかもしれない。「健康に気を付ける」という文言が子供にとって難しいのか。そのときの状態や回答の時期（体調を崩した、感染症の流行）などに捉え方が変わるのかもしれない。

<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎特別活動について、児童の肯定的評価は低学年・高学年ともに微減となったものの、いずれも94%という高い水準を維持している。今年度は、学級会で使う掲示物の作成や議案箱の設置など、教材・教具の充実が図られた。保護者の肯定的評価は2.5ポイント減となった。自由記述を見ると、委員会活動については肯定的な意見が多かったものの、クラブ活動については肯定的な意見と、「実施回数が少ない」という否定的な意見の両方が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動については、活動の主旨について児童、教職員、保護者の共通理解を図る。その上で、ねらいに沿った活動の充実を目指す。学級会や委員会活動については、引き続き特別活動部が中心となって、児童による自発的・自治的な活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級の前や廊下の掲示などからも特別活動が充実しているを感じる。これだけ掲示物が充実している学校は少ない。ぜひ継続して、子供たちの自発的・自治的な活動を充実させてほしい。 低学年が高学年の活動を見て、憧れをもつよい活動なので、続けてほしい。
<p>VII 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>◎生活規律についての保護者の肯定的評価は2.5ポイント、高学年児童は0.1ポイント減となった。一方で、低学年児童の肯定的評価は6.4ポイント増となった。保護者の意見については、他の項目の自由記述欄に「言葉遣いが気になる」「落ち着かない様子が見られる」などの記述があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎年の「下目黒スタンダード」の見直し、共有、指導時間の確保などを継続的に行う。 生活規律の徹底やいじめの防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に来ると子供たちがよく挨拶をしてくれる。知る限りでは本校が一番である。朝会などで、子供たちを褒めてあげてほしい。 「下目黒スタンダード」は、指導しやすいからではなく、子供と一緒に考えて「下目黒スタンダード」をつくっていかうというスタンスで進めていくことが大切。一方的ではなく参画意識を高められるように。

<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎安全教育・事件事故等の防止についての肯定的回答は、四者ともどちらの項目についてもポイント増となった。避難訓練については、教職員内でねらいや内容についての共有が早めに行われ、計画的に指導することができたこと、安全教育については、学習用情報端末を活用して足並みを揃えて指導することができたことが成果につながったと考える。保護者の自由記述欄でも、避難訓練の具体的な内容に触れているものなどが複数あり、保護者の意識も高まっていることが見て取れた。</p> <p>◎情報モラルについては、学校裁量の時間を生かして、充実した取り組みとなるよう教育課程を組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練のねらいを明確にし、継続した指導を行うとともに、最終的には「考えて行動することが大切である」という点について、児童の自覚を促す。 ・引き続き、防災教育や安全指導の様子を保護者に発信したり、取組の成果を教師が価値つけて児童に自覚させたりして、指導の充実を図る。 ・情報モラルやICT機器の利用について、引き続き時数を確保して充実した取り組みとなるようにする。家庭との連携を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のとおり。 ・左記のとおり。 ・各家庭の事情で一律にはできないが、各家庭のルールがどのようになっているかを言えるように、各家庭に常に投げ掛けることが必要。犯罪に巻き込まれ被害者になることや、加害者になることもある。家庭に継続して啓発していく必要がある。 ・児童の情報モラル教育を、これからもしっかりと行ってほしい。
---	--	--	---

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>●小・中連携については、保護者の肯定的評価は0.6ポイントの微減となった。取り組みに実施については意識して発信したものの、内容まで十分に触れることができていなかった。</p>	<p>・小・中連携の取組は保護者や外部に伝わりにくいので、実施報告だけではなく、内容や成果について積極的に発信する。</p>	<p>・左記のとおり。</p>
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎校内の連絡ツールを活用した情報発信の充実については、引き続き多数の肯定的な意見を得られた。ホームページについては、新仕様になり「見づらい」という意見はなくなったが、「学年により記事の数にばらつきがある」といった指摘や、校内連絡ツールがあるのであまり見なくなった、という意見があった。</p>	<p>・保護者への情報発信は、よりタイムリーに、クロズドでできる校内連携ツールを、今後も活用していく。</p> <p>・ホームページは、広く一般の方がみられることを鑑み、学年によって差がないように更新に努める。</p>	<p>・左記のとおり。</p> <p>・左記のとおり。</p>
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員の肯定的評価の割合は94%と高い水準を維持している。今年度は特に、若手が主体的にOJTを進め、研鑽を積むことができた。</p>	<p>・OJTの充実を継続する。さらに、校内の研修だけでなく、外部の研修のさらなる活用も促す。</p>	<p>・今後も様々な研修に参加し、自己研鑽を続けてほしい。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎教職員の肯定的評価は20.6ポイントの大幅増となった。業務の効率化・最適化に組織的に取り組み、成果を上げることができた。</p>	<p>・ICTの活用による事務作業の負担軽減など、削れるところと、削るべきではないところをしっかりと分け、教育活動の充実のための働き方改革を一層推進していく。</p>	<p>・AIをうまく活用すれば、事務作業などの効率化を図れるようになるのではないかと。学びに繋がることもあるので、うまく活用していくとよい。</p>

<p>XI 服務事故の防止について</p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>●教職員の肯定的評価は90%を維持しているものの、6.5ポイント減となった。連携を強化していくべき事項が明らかになった。</p>	<p>・研修を充実させるだけではなく、業務にあたる際に複数人で確認すること、情報共有を密にすることなど、組織的な取り組みを徹底し、未然防止に努める。</p>	<p>・左記のとおり。</p>
---	---	--	-----------------